

令和5年11月10日

蕨市長 頼高 英雄 様

蕨市将来ビジョン審議会

蕨市将来構想の策定について（答申）

令和5年4月28日付蕨第050428号をもって諮問された蕨市将来構想の策定について、本審議会では7回にわたり活発な意見交換を行いながら、慎重な審議を重ねてきました。

審議の結果、示された蕨市将来構想（素案）は、目指すまちのビジョンとして「安心・にぎわい・未来 みんなで創る みんなにあたたかい みんなのまち蕨」を掲げ、今後10年の本市のまちづくりの目指す姿や方向など、市政運営にあたっての基本的な考え方を示しており、その内容はおおむね妥当であると認めます。

なお、審議の過程で議論された《蕨市将来構想の実現に向けた主な意見》を、別添のとおり取りまとめましたので、十分配慮されるよう求めます。

【別添】

《蕨市将来構想の実現に向けた主な意見》

(1) 安全で安心して暮らせるまち

- ・「安全安心」に向けた取組は引き続き最重要のテーマと捉える必要がある。
- ・「自助・共助・公助」の考えのもと、各地区・地域における対応の計画化や、要支援者名簿の有効な活用、外国人住民の避難、民間事業者のBCP策定支援などにも取り組んでいく必要がある。
- ・防犯パトロールなどの、力強い地域の活動と連携し防犯対策を進めるとともに、多様化する消費者被害対策の推進も図る必要がある。

(2) 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち

- ・保育園等については、待機児童対策としての「量の確保」のみでなく、今後は「質の確保」が一層重要となる。
- ・学校については、校舎の老朽化やトイレの洋式化など、ハード面での対応にしっかり取り組む必要があるとともに、教育内容などソフト面の改善・強化により蕨の強みをアピールしていく必要がある。
- ・今の時代、子どもと電子メディアの関係は切り離せないものであるが、「健やかメディア」などの上手なメディアとの付き合い方の取組は依然として重要である。また、子どもの居場所の確保として、児童館・児童センターを中高生にも利用しやすくすることや、不登校など支援を求める人たちにも目を向けた取組なども必要である。
- ・「全ての子どもを犯罪から守る」ことなど、子どもの安全安心に向けた取組を重視する必要がある。

(3) みんなにわたたく健康に生活できるまち

- ・市民の健康づくりにあたっては、一人ひとりが健康管理の意識を持つことが大切であり、それを促す取組が重要である。
- ・歩きやすい歩道を整備することでウォーキングをする人が増えるなど、健康づくりのためには、バリアフリーの観点からのアプローチも重要であり、そうした取組も推進していく必要がある。
- ・ウェルビーイングの視点に立ち、子どもからお年寄り、また外国人も含め全ての人を対象に「健幸づくり」の取組を進める必要がある。
- ・高齢化が進むなか、高齢者に向けた取組を一層重視していく必要がある。独り暮らし高齢者への対応や、コロナ禍で増加した心身の機能が低下する高齢

者への対応、高齢者クラブの担い手の減少、元気な高齢者の社会参画など様々な課題やテーマがある。

- ・ 蕨市にとって、公立病院の存在は大きな強みであるので、建替えとともに、利便性の向上などの充実も進めていく必要がある。

(4) にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち

- ・ 中山道をはじめとした観光資源を活用し、マイクロツーリズム（近距離圏での旅行・観光）の視点等も踏まえながら、観光の取組に一層の力を入れていく必要がある。
- ・ 商店が継続的に経営できるような支援を進めるとともに、空き店舗を活用しやすい仕組みづくりの取組などによって、イベント等による一時的なものに止まらない商店街の一層の活性化を図る必要がある。
- ・ 起業や創業に向けた支援や、継承者の確保・育成とともに、地域資源を活用した商品開発などによって、産業の育成・支援に取り組む必要がある。あわせて、企業・事業者には時代に合わせた「働きやすさ」を求めていく必要もある。
- ・ 様々な取組については、それを市内外に情報発信していくことで、多くの人に住んでもらえる「選ばれるまち」になると考えるので、シティプロモーションの推進は非常に重要なものである。
- ・ 芸術・文化を、市民レベルで掘り起こすとともに、歴史民俗資料館の活用や新庁舎の展示スペースの活用など芸術・文化の発信機能を強化し、市民一人ひとりの足元から、「文化」のボトムアップを目指していくことが重要である。

(5) 環境に優しく快適で過ごしやすいまち

- ・ ゴミ問題は、環境をはじめ文化など様々な分野と関連し、また生活に密接なテーマでもある。持続可能なエコシティを目指すと同時に、市民一人ひとりのごみ出しのマナーの向上なども重要である。
- ・ 都市整備の取組は、様々な分野に関連し波及する（上下水道の整備が市民の命を守ることにともながり、歩道の整備が高齢者・障害者への配慮となる、またボール遊びができる公園づくりが子どもの居場所となる等）ものなので、適切にしっかり取り組んでいくことが必要である。

(6) 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまち

- ・10年前に5%であった本市の外国人の人口は、現在10%超と大きく増加している。外国人との相互理解を深めることで、差別・偏見をなくし、多文化共生への取組を進めていくことは非常に重要なことである。
- ・人権や平和に対する取組は、昨今の国際情勢等を背景に極めて重要度が増している。また、多様性（ダイバーシティ）もより重視する必要がある。

(7) 市民と市がともに力を発揮して創るまち

- ・蕨市の強みである「協働のまちづくり」は、ネットワークステーションの整備などにより、この10数年間で、一層浸透・推進されてきた。今後も力を入れて継続していくべきである。
- ・困りごとを抱えた市民が一人で悩まないよう、市は寄り添った相談の対応を図る必要がある。
- ・様々な施策を進めていく上で、いずれの分野においてもデジタル化は切り離すことのできないものとなっている。

その他全体を通じて

- ・「選ばれるまちづくり」のためには、あらゆる分野において生活都市としての魅力向上を図ることが重要である。
- ・イベントや地域の活動を支える人たちの高齢化が進んでおり、若者の地域参加の促進や世代間交流の取組などによって、若い世代のまちづくりの参加の間口拡大を図り、年齢や国籍などを問わず、みんなで育てるまちづくりを進めていく必要がある。
- ・多様性に配慮したまちづくり、支援を必要とする人たち（子ども、子育て世代、高齢者、障害者など）に優しいまちづくりが大切である。
- ・コロナ禍の影響による「ニューノーマル」への社会転換など、市民のライフスタイルの変化を踏まえたまちづくりも重要である。
- ・若者を含め、多くの市民に市からの情報やメッセージを伝え、共有するためには、それに興味を持ってもらうような情報の伝え方を工夫する必要がある。
- ・蕨市は、行政サービスなど行き届いているものが多く、コンパクトな利点を生かした取組が蕨市の強みである。今後も、コンパクトさをチャンスと捉え、更に住みよいまちを目指すことで、次世代の若者が増えていくような取組を進めていくことが重要である。
- ・目指すまちのビジョン実現に向けては、市民側も自発的にまちづくりに関わり、それぞれの役割を果たして、互いの知恵や能力を出し合い、情報の共有

をしつつ、連携協力することが必要であり、また市民が身近なまちづくりに対して自発的、積極的に取り組んでいけるように行政が支援することが必要である。

- ・「自助・共助・公助」、更には「互助」の視点も含めた、地域のなかでの住民同士の支え合いによるまちづくりも重要である。